

3.11以降を どう生きるか

地域の再生と絆づくりのために

震災やその後の余震、電力不足など、震災後に顕在化した問題の中で、地域社会のあり方を再び見つめなおそうとする姿勢が求められています。静岡大学の教員のそれぞれの専門テーマを切り口として、現在の地域社会における問題を解き明かしていきましょう。

参加
無料

第1回

2011.10.8(土)14:00~16:00

震災後の再生可能エネルギーへの期待と省エネ

講師：松尾廣伸(静岡大学工学部助教)

会場：アクトシティ浜松 研修交流センター6階62研修交流室

第2回

2011.11.12(土)14:00~16:00

緩い絆創りで地域を元気にする~社会起業家「ブリッジパーソン」の役割~

講師：相原憲一(静岡大学客員教授・一般社団法人絆塾代表理事)

会場：静岡大学浜松キャンパス 総合研究棟3階33講義室

第3回

2011.12.10(土)14:00~16:00

東日本大震災を起こした地震とその影響~「大地動乱の時代」をどう生きるか~

講師：小山真人(静岡大学教育学部教授・防災総合センター副センター長)

会場：アクトシティ浜松 研修交流センター4階401会議室

第4回

2012.1.7(土)14:00~16:00

東日本大震災と災害ボランティア活動~山元町の写真洗浄・複写プロジェクトより~

講師：吉田 寛(静岡大学情報学部准教授)

会場：アクトシティ浜松 研修交流センター6階62研修交流室

第5回

2012.2.18(土)14:00~16:00

地域の絆でリスク社会を乗り越える

講師：岡田安功(静岡大学情報学部教授)

会場：静岡大学浜松キャンパス 佐鳴会館会議室

参加費●無料 定員●50人

主催●静岡大学地域連携協働センター・中日新聞東海本社

企画協力●静岡大学生涯学習教育研究センター

問い合わせ●静岡大学生涯学習教育研究センター

☎054-238-4817 [平日9:30~16:30]

e-mail: LLC@ipc.shizuoka.ac.jp

■申込方法(お申し込みは講座実施2日前の木曜必着をお願いします)

FAX・メール・葉書のいずれかによりお申し込みください(先着順)。

FAX 054-238-4295 e-mail LLC@ipc.shizuoka.ac.jp

葉書 〒422-8529 静岡市駿河区大谷836 静岡大学生涯学習教育研究センター宛

※郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、電話番号、講座名、参加回を明記してください。

※当日参加も歓迎しますが、席の空き具合によっては参加をお断りすることもあります。

3.11以降をどう生きるか 地域の再生と絆づくりのために

第1回 10/8 (土) 14:00~16:00

震災後の再生可能エネルギーへの期待と省エネ

松尾廣伸 (静岡大学工学部助教)

原子力発電をエネルギー政策の中心として推し進めてきた日本。震災・原発事故の影響で再生可能エネルギーへの期待が高まっています。家庭におけるエネルギー需要・消費形態、社会全体におけるそれを再認し、どのような再生可能エネルギーがあるのか、どのように導入すべきか考えてみましょう。その中で、地域主導が可能な分散型電源と大型集中発電についても検討します。また、一方で省エネルギーを行うための本質的な考え方と省エネルギー化が持つポテンシャルについても考えてみましょう。

第2回 11/12 (土) 14:00~16:00

緩い絆創りで地域を元気にする ——社会起業家「ブリッジパーソン」の役割——

相原憲一 (静岡大学客員教授・一般社団法人絆塾代表理事)

地域を元気にする主役は自らの志ある人財。多様な価値観が取り巻く中で想定外の新たな地域社会の価値を生み出して持続していく仕組みが求められる。多様な人財を繋いでこそイノベーションが継続的に生まれるが、そこに必要なのはビジョンの共有を踏まえた緩やかで自由な発想を認め合う絆創りである。絆創りは心の内の深まりとコミュニケーションの空間的拡がりに加えて、いかなる状況変化でも持続能力を有する時間的繋がりが求められる。そこに求められるのは当事者意識を持った社会起業家の「ブリッジパーソン」である。この「ブリッジパーソン」の存在こそが元気な地域社会の進展と回復能力の発揮とを約束する。

第3回 12/10 (土) 14:00~16:00

東日本大震災を起こした地震とその影響 ——「大地動乱の時代」をどう生きるか——

小山真人 (静岡大学教育学部教授・防災総合センター副センター長)

3月11日に東日本大震災を起こした地震(マグニチュード9.0)の物理像をまとめ、これまでに日本国内で誘発された地震ならびに今後誘発が懸念される地震や火山噴火について現在わかっていることを解説するとともに、東海地震や富士山噴火等との関連性についても触れる。

第4回 1/7 (土) 14:00~16:00

東日本大震災と災害ボランティア活動 ——山元町の写真洗浄・複写プロジェクトより——

吉田 寛 (静岡大学情報学部准教授)

東日本大震災に際して、多くの災害ボランティアや市民団体が復旧・復興活動に参加しました。私自身も災害ボランティアとして、若手の研究者やカメラマン、そして学生たちとチームを結成して宮城県山元町の支援に入りました。ボランティア活動が目撃された阪神・淡路の大震災から16年。今回、若者たちはどのような動機で、そしてどういったスタイルで活動に参加したのでしょうか。私自身の活動の報告を通して、現代そして今後の日本社会における公的領域への、若い世代の参加意識についてお話しします。

第5回 2/18 (土) 14:00~16:00

地域の絆でリスク社会を乗り越える

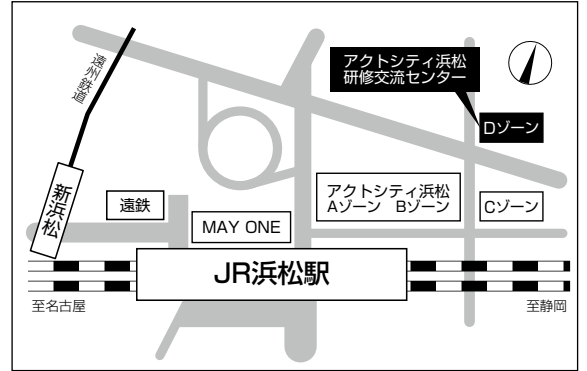
岡田安功 (静岡大学情報学部教授)

日常生活には事故や判断ミスがつきものです。コンピュータのプログラムミスによって銀行のATMが止まり、新幹線が動かなくなり、様々な影響が社会に及びます。国債の格付け次第で株価が上下します。私たちは不利益を被ると、何／誰が原因かを考え、失った利益を回復しようとして、法制度を使うと、被害者が加害者に損害賠償等の請求をすることができます。ところが、被害の範囲が大きいにもかかわらず、従来の法制度では救済できない事例が増えてきました。これは近代社会の構造変化が原因ですが、これを乗り越えるためには地域に生きる人々の絆が必要です。

交通案内

■第1回・第3回・第4回の会場

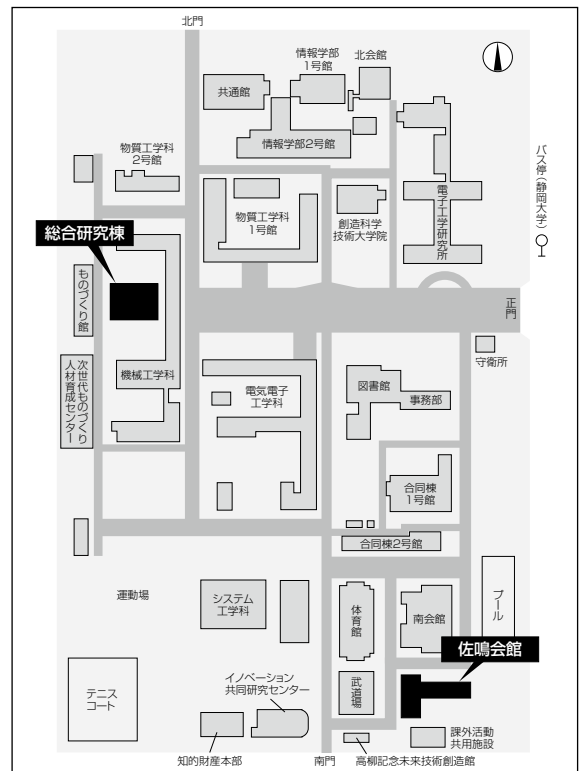
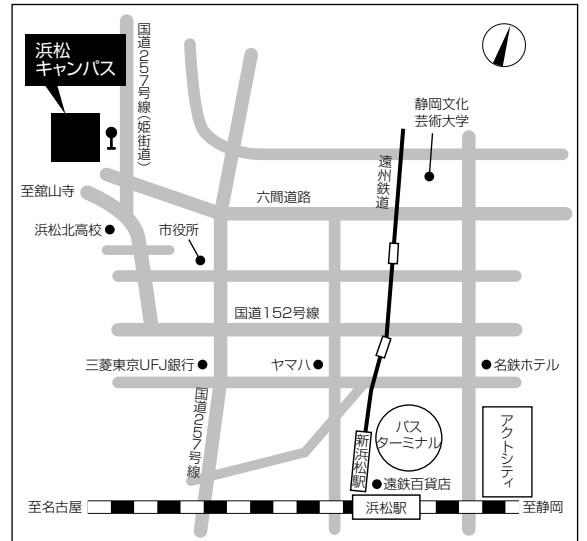
アクトシティ浜松 研修交流センター



JR浜松駅徒歩10分(アクトシティ浜松Dゾーン内)

■第2回・第5回の会場

静岡大学浜松キャンパス



JR浜松駅北口バスターミナルより、遠州鉄道バス15番または16番乗り場から乗車し(全路線)、「静岡大学」バス停下車(所要時間約20分、1時間に10本程度運行)。

※第2回講座実施日(11/12)は、大学祭(テクノフェスタ)開催中のため、自動車での来場はできません。公共交通機関をご利用ください。